



414
A2632
I



章 總則

第一條 政府ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始

マリ翌年三月三十一日ニ終ル

一 會計年度所屬ノ歳入歳出ノ出納ニ関スル

事務ハ翌年度九月三十日マテニ悉皆完結ス

ヘシ

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

天
三
三
三
三

第二條 租税及ヒ其他一切ノ収納ヲ歳入トシ

一切ノ経費ヲ歳出トシ歳入歳出ハ總豫算ニ

編入スヘシ

各年度ニ於テ決定シタル経費ノ定額ヲ以テ
他ノ年度ニ属スルハキ経費ニ充ルコトヲ得ス

第三條 各官廳ニ於テハ法律勅令ヲ以テ規定
シタルモノ、外特別ノ官金ヲ所有スルヲ得
ス

第二章 豫算

第四條 歳入歳出ノ總豫算ハ前年ノ帝國議會
集會ノ始ニ於テ之ヲ提出スヘシ

第五條 歳入歳出ノ總豫算ハ之ヲ經常臨時ノ
二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分
スヘシ

總豫算ニハ帝國議會參考ノ為メ左ノ文書ヲ
添付スヘシ

- 第一 豫算各項中各目ノ明細書
- 第二 各省ノ豫定經費要求書
- 第三 其年三月三十一日ニ終リタル會計
年度ノ歳入歳出概計書

第六條 豫算中ニ設クヘキ豫備費ハ左ノ二項ニ分ツ

第一豫備金

第二豫備金

第一豫備金ハ避クヘカラスル豫算ノ不足ヲ補フモノトス

第二豫備金ハ豫算外ニ生シタル必用ノ費用ニ充ツルモノトス

第七條 第一豫備金ノ支出ハ年度経過後ノ帝
國議會ニ報告シ第二豫備金ノ支出ニ係ルモ
ノハ其承諾ヲ求ムルヲ要ス

第八條 毎年度大藏省證券發行ノ最高額ヲ定
ムルハ帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第三章 収入

第九條 租税及ヒ其他ノ歳入ハ法律命令ノ規

程ニ從ヒテ之ヲ徴収スヘシ

法律命令ニヨリ当該官吏ノ資格アルモノニ
非サレハ租税ヲ徴収シ又ハ其他ノ歳入ヲ領
収スルヲ得ス

第四章 支出

第十條 毎會計年度ニ於テ政府ノ經費ニ充ル
所ノ定額ハ其年度ノ歳入ヲ以テ之ヲ支辨ス

ヘシ

第十一條 國務大臣ハ豫算ニ超過シテ定額ヲ

使用スルコトヲ得ス

國務大臣ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額

ヲ使用シ又ハ彼此流用スルコトヲ得ス

國務大臣ハ其所管ニ屬スル收入ヲ使用スル

コトヲ得ス

第十二條 國務大臣ハ法律勅令ヲ以テ許可セ
ラレタル場合ヲ除クノ外ハ一年度以外ニ涉
リ政府ノ義務トナルヘキ工事及ヒ物件買入
借入ノ契約ヲナスコトヲ得ス

第十三條 國務大臣ハ其所管定額ヲ使用スル
為メ國庫ニ向ヒテ仕拂命令ヲ發スルハ但別
ニ定ムル所ノ規程ニ従ヒ他ノ官吏ニ委任シ
テ仕拂命令ヲ發セシムルコトヲ得

第十四條 國庫ハ法律命令ニ及ル仕拂命令

ニ對シテ仕拂ヲナスコトヲ得ス

第十五條 國務大臣ハ政府ニ對シ正當ナル債

主若クハ其代理人ノ為ニスルニ非サレハ

仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス

左ノ諸項ノ經費ニ限リ主任ノ官吏ニ委任シ

テ現金支拂ヲ為サシムル為メニ國務大臣ハ

國庫ニ向ヒ現金前渡ノ仕拂命令ヲ發スルコ

トヲ得

第一 軍隊及ヒ艦隊ニ屬スル經費

第二 在外各廳ノ經費

第三 前項ノ外ニ於テ外國ニ於テ仕拂ヲナ

入經費

第四 運輸通信ノ不便ナル内國ノ地方

ニ於テ仕辨ヲナス經費

第五 廳中常用雜費ニシテ一ケ年ノ総

費額五百圓ニ滿タサルモノ

第六 場所ノ一定セサル事務所ノ經費

第七 各廳ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ

經費但一主任官ニ付三千圓マテ

ヲ限ル

第五章 決算

第十六條 會計検査院ノ検査ヲ經テ政府ヨリ

帝國議會ニ提出スルトモロノ總決算ハ總豫

算ト同一ノ様式ヲ用ヒ之ヲ款項ニ分ケ左ノ

事項ノ計算ヲ明記スル

歳入ノ部

歳入豫算額

調定済歳入額

収入済歳入額

収入未済歳入額

歲出、部

歲出豫算額

豫算決定後增加歲出定額

仕拂命令濟歲出額

仕拂濟歲出額

仕拂未濟歲出額

翌年度へ繰越額

第十七條 前條、總決算ニハ會計検査院ノ檢

査報告ト俱ニ左ノ文書ヲ添附スルニシ

第一 各省決算報告書

第二 國債計算書

第三 官有財産計算書

第四 特別會計計算書

第六章 期滿免除

第十八條 政府ノ負債ニシテ其仕拂フヘキ年
度經過後滿五箇年內ニ債主ヨリ支出ノ請求
若クハ仕拂ノ請求ヲナサルモノハ期滿免
除トシテ政府ハ其義務ヲ免ル、モノトス但
特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタ
ルモノハ各其定ムル所ニ依ル

第十九條 政府ニ納ムヘキ收入金ニシテ其納
ムヘキ年度經過後滿五箇年内ニ上納ノ告知
督促ヲ受ケサルモノハ其義務ヲ免カルモ
ノトス但特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限
ヲ定メタルモノハ各其定ムル所ニ依ル

第七章 歳計剩餘定額繰越年度後収支
及ヒ定額戻入

第二十条 各年度ニ於テ歳計ニ剩餘アルトキ
ハ其翌年度ノ歳入ニ繰入ルヘシ

第二十一條 一年度内ニ終ルヘキ工事又ハ製
造ニシテ避クヘカラサル事故ノ為ノニ事業
ヲ遅延シ年度内ニ其經費ノ支出ヲ終ラサリ
シモノハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコト
ヲ得

第二十二條 數年ヲ期シテ竣功スヘキ工事又

ハ製造ニシテ繼續費トシテ總額ヲ定メタル

モノハ毎年度ノ仕拂殘額ヲ竣功豫算ノ年

度マテ遞次繰越使用スルコトヲ得

第二十三條 誤拂過渡トナリタル金額ノ返納
出納ノ完結シタル年度ニ屬スル収入及ヒ其
他一切豫算外ノ収入ハ總テ現年度ノ歳入ニ
組入ルヘシ但法律命令ニ依リ前金渡概算渡
繰替拂ヲナシタル場合ニ於ケル返納金ハ各
之ヲ仕拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入ルコトヲ
得

第八章

政府ノ工事及ヒ物件ノ賣買貸

借

第二十四條 法律ヲ以テ定メタル場合ノ外政

府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ハ總テ公告シ

テ競争ニ付スヘシ但左ノ場合ニ於テハ競争

ニ付タズ相對ノ約定ニ依ルコトヲ得ヘシ

第一一人又ハ一會社ニテ專有スル物品

ヲ買入ル又ハ借入ルトキ

第二政府ノ所為ニ秘密ニスヘキ場合ニ

於テ命ズル工事又ハ物品ノ賣買

貸借ヲサスルトキ

第三 非常急遽ノ際ニ事又ハ物品ノ買入
借入ヲサスルニ競争ニ付スル暇ナキ
トキ

第四 特種ノ物質又ハ特別使用ノ目的ヲ
ルニ由リ生産製造ノ場所又ハ生産
者製造者ヨリ直接ニ物品ノ買入
ヲ要スルトキ

第五 特別ノ技術家ニ命スルニ非サレハ
製造シ得ヘラザル製造品及ヒ

機械ヲ買入ル、トキ

第六 土地家屋ノ買入又ハ借入ヲ為スニ
當リ其位置又ハ構造等ニ限アル場
合

第七 同一ノ契約者ニ對シ一年度内五百
圓ヲ超エサル工事又ハ物品ノ買入
借入ノ契約ヲ為ストキ

第八 同一ノ契約者ニ對シ一年度内見
積價格ニ百圓ヲ超エサル動産
ヲ賣拂フトキ

第九 軍艦ヲ買入ル、トキ

第十 軍馬ヲ買入ル、トキ

第十一 試験ノ為ニ工作製造ヲ命シ

又ハ物品ヲ買入ル、トキ

第十二 慈惠ノ為ニ設立セル教育所

ノ貧民ヲ傭役シ及ヒ其生産又

ハ製造物品ヲ直接ニ買入ル、

トキ

第十三 囚徒ヲ傭役シ又ハ囚徒ノ製

造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ及

ニ政府ノ設立ニ係ル農工業場ヨリ直
接ニ其生産又ハ製造物品ヲ買入ル、
トキ

第十四 囚徒ノ製造物品及ヒ政府ノ設立
ニ係ル農工業場ノ生産又ハ製造物
品ヲ賣拂フトキ

第二十五條 工事又ハ物件ノ買入ヲ為スニ前

拂ヲ行フヘカラス但前條第十二項ノ場合若

クハ軍艦兵器彈藥ノ製造ヲ注文スルトキハ

年限ニアラス

第九章 會計官吏

第二十六條 政府ニ屬スル現金若クハ物品ノ
出納ヲ掌ルトコロノ官吏ハ其現金若クハ物
品ニ就キ一切ノ責任ヲ負ヒ會計検査院ノ檢
査判決ヲ受クハシ

第二十七條 前條ノ官吏水火盜難又ハ其他ノ
事故ニ依リ其保管スル所ノ現金若クハ物品
ヲ紛失毀損シタル場合ニ於テハ其保管上自
己ノ過失ナク相當ノ注意ヲ盡シテ避ケ難キ
事實ヲ會計検査院ニ證明シ責任解除ノ判決
ヲ受クルニ非サレハ其負擔ノ責ヲ免ルコ
トヲ得ス

第二十八條 現金又ハ物品ノ出納ヲ掌ルニ就

キ身元保證金ヲ納メシムルコトヲ要スルモ
ハハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十九條 任拂命令、職務ハ現金出納、職
務ト相兼スルコトヲ得ス

第三十條 歳入ノ徴収若クハ経費ノ支出ヲ掌

ルトコロノ官吏ハ其取扱フトコロノ事務ニ

就キ一切ノ責任ヲ負ヒ會計検査院ノ検査判

決ヲ受クハシ其故意又ハ過失怠惰ニ由リ政

府ノ損失ヲ生シタルトキハ總テ其金額賠償

ノ責ヲ負フハシ

第十章 雜則

第三十一條

普通

會計規程

ニ

準據スヘカラ

サル必要アルモノハ特別會計ヲ設置スルコトヲ得

特別會計ヲ設置スルハ法律ヲ以テ定ムヘシ

第三十二條 政府ハ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命ズルコトヲ得

第十一章 附則

第三十三條 本法、條項帝國議會之閣議ニ由ル

モノヲ除ク、外明治二十二年四月一日ヨリ

施行ス

第三十四條 本法ノ條項ト抵触スル法令ハ各
其條項施行ノ日ヨリ廢止ス



